の属を *Cremocephalum* と改名して最も精細な記相文を残した Cassini の功績は大きい。*Gynura* proper は長い花柱分枝を有するのに関らず，表皮性の appendage はなくて，柔組織は先端まで続いている（付図参照）。*Gynura* の自生地は東洋の濫，熱帯が中心で僅かにアフリカに及ぶ。ちなみに *Erechtites* は中南米と New Zealand, Australia, New Guinea に自生するが，米州以外のものは総苞片が少くて（8 個），別系のものであり，雑草化して各地に拡がつているものはない。

Belcher 氏によると東洋に雑草化した 1 種は *C. crepidioides* (Benth.) S. Moore であり，最も古い記録は Medan（スマトラ，1926 年頃），Madras（印度，1925 年）及び雲南省（1925 年）である。氏は Walker 氏などが採集した沖繩島の標本も引用している。本邦及び太平洋方面の分布については前報を参照されたい。氏はこの種の他に近縁種として，*C. rubens* (Juss. ex Jacq.) S. Moore 及び *C. sarcobasis* (DC.) S. Moore にふれている。*C. rubens* は総梗に頭花の単一のもの，他の 2 種は頭花の多いもので，この中では *C. crepidioides* は短い単細胞の伏毛を全体に有し，*C. sarcobasis* は多細胞の立毛を有するという。日本及び Caroline には前報にふれたように頭花の単一のものがあるが，小生の見た範囲では全部多細胞の毛を有している。これらの種は polyploid series をなすと考えている細胞学者もあるので，Belcher 氏も別種となすべきかどうか少しあやふやである。若しも全部を一種と認める場合には，最も epithet の古い *C. rubens* を用うべきものと思う。小生は今の所，検査した標本はすべて同一種内の変化型と見ている。Belcher 氏の論文によると東洋に雑草化したものは *C. crepidioides* の型ばかりであるととれるが，事実はそうでないこと上述のとおりである。しかし氏の論文で，最近まで多くの学者によつてダンドボロギクと混同されていたこの植物の属のみは明かになつたといえる。Belcher 氏の論文を参照しつつ，多少自分のデータを加えてこの一文を記した。

（お茶の水女子大学）

正　誤　Errata to Vol. 31, No. 3

頁 (page)	行 (line)	誤 (for)	正 (read)
83	24	野富牧太郎	牧野富太郎
〃	Fig. 5. 説明	f. *pallens*	var. *pallens*